

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2023年12月

販促・魅力発信

- 三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として「**ごひいき！三陸常磐キャンペーン**」を**2022年10月1日より実施**。
- 2023年10,11月には**スーパーマーケットのとりせん（栃木県）**において**三陸常磐海産物の販促キャンペーンを実施**。
- また、大手コンビニエンスストアである**セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン**とのコラボレーションで「**いつものコンビニでも、ごひいきに！**」キャンペーンが2023年12月5日より開始され、三陸・常磐の海の幸を使用した各社オリジナルの商品が発売された。

キャンペーンの様子



とりせん（栃木県）



「いつものコンビニでも、ごひいきに！」店舗での販売の様子
（左から、セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン）

- 三陸が誇る「牡蠣」の県内外消費を拡大していくため、「**三陸魚介プライド 牡蠣フェア**」を11月1日～12月31日の期間で開催。
- 「三陸魚介プライド 牡蠣フェア」のもと、仙台エリア（82店舗）において、**宮城県・岩手県で水揚げされる「三陸産牡蠣」の特徴を理解**し、その特性にあったメニューを各店舗オリジナルで提供している。
- 飲食店と生産者をつなぎ、より深い理解と共感を消費者と共有するべく、**本牡蠣フェアの開催に向けては、本年10月に飲食店を対象とした産地ツアーを実施**。
- なお、**2024年2月には、「三陸魚介プライド わかめフェア」を実施予定**。
- こうした取組を通じ、三陸地域の水産品・水産加工品の魅力発信を継続していきたい。

産地ツアーの開催の様様



牡蠣フェア開催の様様



- 令和6年1月～3月の期間中、宮城県仙台市のホテル「ウェスティンホテル仙台」において、その季節、土地でしか味わえない旬の一品、地域に伝わる郷土料理を三陸の食文化として伝えるため、三陸で水揚げされた新鮮な魚介類を使用した料理を提供する冬の宴会プランがスタート。
- **宮城県産の真鱈に特別な処理をした「さくら真鱈」、三陸産スズキ、魚介などの三陸ものを活用し、彩りも鮮やかに見た目も楽しむことができるよう、「三陸産魚介類のブイヤベース」や「スズキの雲丹パート焼き」等、趣向を凝らしたメニューを提供。**
- 上質なサービスを提供し続けている同ホテルが三陸ものを美しくアレンジし、宴会の利用者に提供することで、三陸ものの魅力発信を行う。

ウェスティンホテル仙台 冬の宴会プランの様様



三陸産魚介類のブイヤベース



スズキの雲丹パート焼き

- 令和6年1月中旬～3月の期間中、宮城県松島町のリゾートホテル「ホテル松島 大観荘」において、その季節、土地でしか味わえない旬の一品、地域に伝わる郷土料理を三陸の食文化として伝えるため、三陸で水揚げされた新鮮な魚介類を使用した料理を提供する宿泊プランがスタート。
- **宮城県気仙沼産ヨシキリザメに水揚げ後すぐに処理をした「ピーチシャーク」、三陸産ムラサキウニ、河豚、銀鮭、天然穴子などの三陸ものをふんだんに活用。**また、**近年水揚げが増えたカナガシラもメニューに組み込んでおり、「河豚鍋」「ピーチシャークのエスカベッシュ」「オレンジとローズマリーの香り」「カナガシラ香り揚げ」「油淋ソース」**等、和洋中いろいろな料理を楽しむことができるbuffet形式で趣向を凝らしたメニューを提供。
- 地元の食材を使った三陸ならではの食べ方を宿泊者に提供することで、三陸ものの魅力発信を行う。

ホテル松島 大観荘 buffetメニューの様相



和食メニュー



洋食メニュー



中華メニュー

- **三陸の魚市場から加工・流通までのスキームを多くの消費者に現場に来ていただき体験してもらい、安心とおいしさを消費者の声から広げていく新しい広報として、水産加工事業者の工場見学を通じた魅力発信を実施。** Open Factory 事業実施に向けて、経済産業省において専門家派遣を支援。
- 具体的には、**株式会社武田の笹かまぼこ（宮城県塩竈市）** や、**株式会社木の屋石巻水産の美里町工場（宮城県美里町）** を訪問するツアーを12月17日に実施。
- 武田の笹かまぼこ 武田社長から地域食材の美味しさを消費者に届ける商品開発の話を知るとともに、工場見学や笹かまぼこ焼き体験を実施。木の屋石巻水産では、水産加工品が生産されるまでの生産過程を学ぶとともに、くじら・さんまの缶詰の試食も実施。**商品の安全性や魅力を学ぶとともに、試食を通じて三陸の加工品の美味しさを消費者にPRした。**

Open Factoryの様様



武田の笹かまぼこ 見学の様子



木の屋石巻水産 見学の様子



説明会の様子



大船渡会場

日時：令和5年12月14日（水）14：00～16：00

場所：シーパル大船渡 大会議室

参加者数：22名（うちオンライン7名）

- 11月25・26日の2日間、東京都世田谷区で開催された「シモキタマルシェ」に、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」を出店。
- 本イベントでは、福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者等6社の商品20品を販売。また、福島県漁連の「めひかり唐揚げ」「さんまのポーポー焼き」の試食を実施。
- 両日とも多くのお客様が来場。商品はほぼ完売した。お客様からは「（試食した）さんまのポーポー焼きが美味しい。（→その後ポーポー焼きを購入）」「メヒカリの唐揚げを試食購入した友人に勧められて来場した。別の友人にも勧める。」といった、応援する声が多く寄せられた。

常磐大漁市 inシモキタマルシェ



会場の様子



試食の様子

- 12月9・10日の2日間、兵庫県南あわじ市の産直市場「美菜恋来屋（みなこいこいや）」で開催された「東北水産フェア」に、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」を出店。
- 本イベントでは、福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者等4社の商品20品を販売。また、福島県漁連の「めひかり唐揚げ」「あんこう唐揚げ」「さんまポーポー焼き」の試食を実施。
- 両日とも多くのお客様が来場。商品はほぼ完売した。お客様からは「タコが美味しかったので買いだめする。」「珍しい魚ばかりなので知人にもプレゼントしたい。」といった、応援する声が多く寄せられた。
- また、開催期間中の9日には、南あわじ市の守本市長、徳島県鳴門市の泉市長にもご来場いただき、福島県の水産物をPRいただいた。

常磐大漁市 東北水産フェアin美菜恋来屋（南あわじ市）



会場の様子（右写真は南あわじ市提供）

南あわじ市・守本市長（左から3人目）
鳴門市・泉市長（左から2人目）

- 12月16日（土）、道の駅なみえ（浪江町）にて「請戸ものまつり」を浪江町が開催。福島相双復興推進機構も開催を支援。
- 本イベントは、地元の請戸漁港で水揚げされる「請戸もの」の美味しさと魅力を知っていただくことを目指して開催。当日は、元水産庁職員の上田勝彦氏によるライブキッチンショー、実際に請戸漁港で水揚げされた生きている魚を見て触れることができる「請戸もの おさかな水族館」（地元企業である柴栄水産が魚の提供等で協力）、請戸水揚げのしらすを使った「しらすの卵とじ」の無料ふるまいなどが行われた。
- 当日は多くのお客様が来場。ライブキッチンショーでの上田氏のオリジナルレシピや見事な手さばきに感嘆の声が上がり、「おさかな水族館」では最初は恐々と魚に触れていた子どもたちが最後は笑顔で魚を抱える姿が見られた。また、「しらすの卵とじ」も「素材が生きていて、美味しかった。」「身体が温まる。」などの声をいただき、大変好評であった。

請戸ものまつり



ライブキッチンショー



請戸もの おさかな水族館



無料ふるまい

- ドバイで開催されたCOP28の機会を捉え、日本産水産物のPRイベントを開催。吉田宣弘経済産業大臣政務官から、アブドゥラ・アル・サーレハ経済省次官等の要人や来場者に対して日本産水産物の魅力と安全性について説明がなされた。
- 12月13日～14日にかけて軽井沢にて行われた「日ASEANヤングリーダーズサミット」、及び16日に六本木にて行われた「日ASEAN経済共創フォーラム」にて、水産品等をPRするイベントを計3回実施。

COP28の機会を捉え、ドバイで水産品をPR

- 開催日：2023年12月4日（月）
- 会場：UAE（アラブ首長国連邦）・ドバイ
- 概要：
 - COP28の機会を捉え、日本産水産物の安全性をPRするとともに、現地水産事業者やレストラン関係者等に魅力を伝え、購入を促すことを目的にドバイで日本産水産物をPR。
 - 在ドバイの老舗日本食レストラン「TOMO」の料理長の高橋智寿氏による監修のもと、北海道産ホタテを使った寿司や天ぷら等のメニューを提供した。
 - 当日は吉田宣弘経済産業大臣政務官から、アブドゥラ・アル・サーレハ経済省次官等の要人や来場者に対して日本産水産物の魅力と安全性について説明がなされた。サーレハ次官はお寿司を食べて日本語で「おいしい」とコメントした。



吉田政務官がサーレハ次官に日本産水産物の安全性とおいさを説明



試食する来場者

日ASEAN50周年記念イベントにて水産品等をPR

<①日ASEANヤングリーダーズサミットでの水産品PR>

- 開催日：2023年12月13日（火）、14日（水）
- 提供品目：岩手県産ホタテ、兵庫県産タイ、兵庫県産タコ、国産サワラ等
- 出席者：新浪剛史氏（サントリーHD社長・経済同友会代表幹事）、保坂伸氏（経済産業審議官）、アンジエラ・タハリテ・イェヨ氏（インドネシア観光・クリエイティブ・IT省副大臣）など
- 概要：夕食会において日本産水産物を扱ったコースをプリンスホテルのメニュー立案協力提供。昼食も日本産水産品コーナーを設置し、岩手県産ホタテの寿司や黄金焼きなどを提供。

<②日ASEAN経済共創フォーラムでのブース出展>

- 開催日：2023年12月16日（土）
- 提供品目：北海道産ホタテ、常磐産ヒラメ、長崎県産のマダイ等
- 出席者：齋藤健氏（経済産業大臣）、マイトン・コナシット氏（ラオス商工大臣）など
- 概要：レセプションにおいて日本産水産物を扱ったメニューを提供したほか、「Japanese Seafood」ブースを設置しPR。



軽井沢プリンスホテル提供
13日夜コースメニュー。



16日レセプションにおける日本産水産品PRの様子

- 新たな市場の開拓と商流構築に繋げることを目的に、**12月3日～9日、米国・カナダ・シンガポールから6社のバイヤーを招へいし、青森、岩手、宮城、福島県の水産事業者と直接商談する機会を提供。**
- 各県の魚市場や水産事業者を訪問して訪問各地の水産事情について理解を深める機会を提供。訪問最終日には東京都の豊洲市場も訪問した。
- 視察と商談会の様子は、RAB青森放送、NHK盛岡、NHK仙台、宮城テレビ、KFB福島放送、時事通信、読売新聞、東奥日報、岩手日報、水産経済新聞、Japan Timesなどで報道された。

海外水産バイヤーによる三陸・福島商談ツアー

■ 市場視察・企業訪問

実施日：12月4日（月）～9日（土）

水産関連の視察先：

・水産卸売市場（青森・宮古・石巻）、牡蠣養殖場、海苔養殖場

水産事業者訪問先：

・水産事業者、水産加工会社、卸売事業者等

＜海外バイヤーの声＞

「直接生産者とディスカッションすることができてよかった」、「探していたものが見つかった。来た甲斐があった」



青森中央卸売市場



石巻魚市場 海苔養殖場視察

■ 商談会

実施日：12月4日（月）、7日（木）

実施都市：青森市、八戸市、石巻市

バイヤー：招へいた6社（米国、カナダ、シンガポール）

参加企業：約20社（3都市合計）

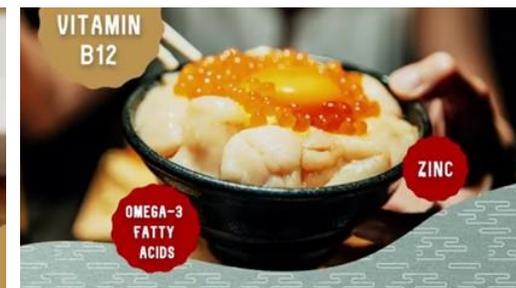


商談会の様子

- 12月19日から3月初旬にかけて、**グローバルメディア（CNN）のTVCM等を通じたブランディング・プロモーションを実施。**
- 同期間中、TVCMや各種水産物関連事業において、今般開発した日本産水産物の**共通ロゴを統一的に用いることで、消費者やバイヤーへの訴求力向上、認知・興味関心の獲得や新たな需要創出につなげる。**

グローバルメディア（CNN）を活用したブランディング・プロモーション

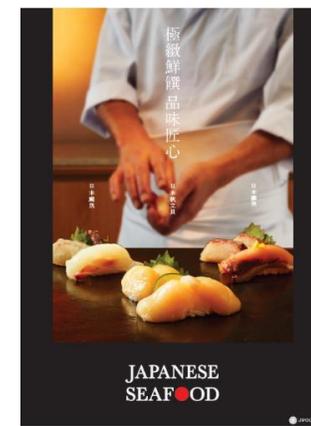
- JFOODOは12月19日から3月初旬にかけて、グローバルメディア（CNN）を通じた大規模なブランディング・プロモーションを実施。
- 日本産ホタテ等の特徴やストーリー性を訴求するTVCMや番組を制作し、全世界で延べ2,000回以上放映する予定。
- 同期間中、同TVCMやその他の水産物関連事業（ジェットロ等が主催する各種フェアや見本市、商談会等）において、今般開発した日本産水産物の共通ロゴを統一的に掲出することにより、各事業間の横での連動を図るとともに、消費者やバイヤーへの訴求力の向上、認知・興味関心の獲得や新たな需要創出につなげる。



12/19より放映を開始したTVCMの映像。1月以降、別のTVCMや料理番組も放映予定

JAPANESE
SEAF●OD

日本産水産物の共通ロゴ（上）とキービジュアル（右）



- 12月9～10日に、台湾・台北で開催された「日本東北遊楽日」（※一般社団東北観光推進機構が主催する台湾最大級の東北PRイベント。2日間で9万人を超える一般消費者が来場）にて、**東北の自治体及び公益財団法人日本台湾交流協会と連携**し、日本の水産品の試食プロモーション及び販売拡大支援を行う「新鮮美味！日本海鮮祭」イベントを開催。**JNTOとも連携し、東北の魅力と日本の水産物のおいしさを一体的に訴求**。
- **4,000名超の現地一般消費者**に、**北海道産ホタテやウニ、宮城県産の海苔**等を組み合わせた試食サンプルを提供して需要喚起するとともに、生鮮食品の取り扱いで**台湾最大手のEC事業者「鮮拾」（※台湾の食品関連・流通分野で最大手の統一企業集団グループ）と連携**し、「鮮拾」の日本産水産品ページに誘導して販売拡大を支援。あわせて、一般消費者に対するアンケート調査を4,000件以上実施し、水産物購入時の台湾の消費者行動を分析。今後の台湾における日本産水産物の更なる販売拡大に活用する。
- 当日は、インフルエンサー（計4名・**計60万人以上**のフォロワーを有する）を招致してプロモーションしたほか、**現地のテレビ局含む33のメディアで取り上げられ、日本の水産物の魅力を台湾全域に発信**。

「新鮮美味！日本海鮮祭」イベントの様子



新鮮美味！日本海鮮祭ブースの様子



現地テレビ局（計4社）が取材・放映



10万人のフォロワーを有する
インフルエンサー

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、1月2日に首都圏の百貨店である**大丸東京店及び松坂屋上野店**で**新春初売り「ふくしま わき辰（たつ）おいしさ！福袋」**を販売。
- 大丸東京店では、福島牛や福島県産米、常磐もののほか、北海道産ホタテの詰め合わせを加えた計4種類のお得な福袋550個を販売する。
- また、松坂屋上野店では、福島牛詰め合わせの福袋200個を販売する。

ふくしま わき辰（たつ）おいしさ！福袋@大丸東京店

- 日程：1月2日（火）
- 場所：大丸東京店



▲会場イメージ

ふくしま わき辰（たつ）おいしさ！福袋@松坂屋上野店

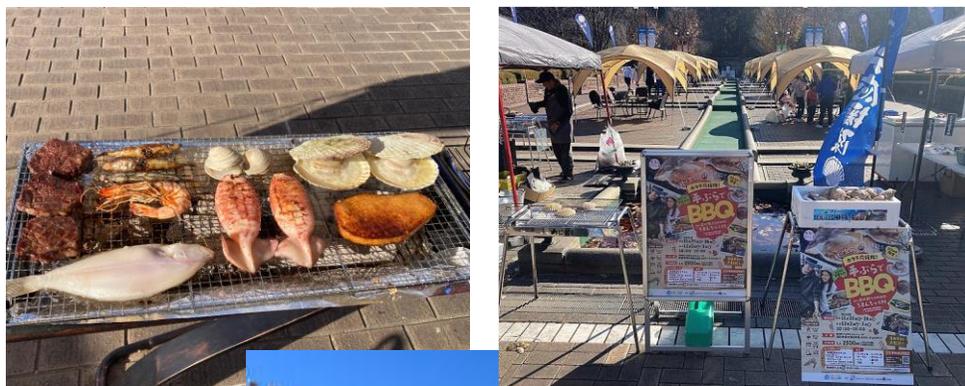
- 日程：1月2日（火）
- 場所：松坂屋上野店



▲会場イメージ

- 11月25、26日、12月2、3日の4日間、道の駅うつのみやろまんちっく村（栃木県宇都宮市）で、福島県産やなぎカレイや北海道産ホタテなどを味わっていただく“手ぶらで BBQ” イベントを2週連続で開催した。**約13,200人が来場し、約135人が参加した。**
- 12月16日、17日の2日間、**沖縄県うるま市にある「あまわりパークイベント広場」**で、**栃木県につづいて、福島県産メヒカリや北海道産ホタテなどを用意した“手ぶらで BBQ” イベントを開催しました。約505人が来場し、約65人が参加した。**

道の駅うつのみやロマンチック村



▲会場の様子

あまわりパーク 勝連城跡



▲会場の様子

- 1月18日～1月20日、タイ・バンコクで開催される日本の農林水産品の企業向け試食見本市である「**JAPAN SELECTION**」に「**発見！ふくしま**」ブースを出展し、**福島県産水産品、加工食品などを来場者や流通業者に試食PR**をする。
- 1月21日～1月23日、米国西海岸最大級の高級食品見本市「**Winter Fancy Food Show 2024**」に「**発見！ふくしま**」ブースを出展し、**来場者や流通業者の皆さまに福島県産米「天のつぶ」パックライスの試食PR**をする。

タイ「JAPAN SELECTION 2024 FOOD STYLE」

- 日本産農林水産品のさらなる輸出拡大と海外への販路拡大のために開催するB2B向け大規模試食見本市
- 日程：1月18日（木）～1月20日（土）
- 場所：タイ・バンコク クイーンシリキット・ナショナルコンベンションセンター（プレナリーホール1, 2）

出展予定商品一例（イメージ）



▲メヒカリの唐揚げ



▲アンコウの唐揚げ



▲あんぽ柿



◀会場イメージ

米国「Winter Fancy Food Show 2024ジャパンバビリオン」

- 北米市場でビジネス展開を目指す企業にとって貴重な商談の場である米国西海岸最大級の高級食品見本市
- 日程：1月21日（日）～1月23日（火）
- 場所：米国・ラスベガス コンベンションセンター



▲2023年1月出展時のブース



◀会場イメージ

理解釀成

- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんな
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全上の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※6月26日に採取を行ったALPS処理水（K4-Cタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種関での分析結果をもとにしています

凡例

- 異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示
- ⚠ 「放出停止判断レベル」を超えたときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で300Bq/L」と定めています。これらを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんな
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

周辺の
海の状況は
どうなっているの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

みんな
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

海水や魚は
大丈夫なの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS 処理水のこと

**ALPS
処理水**

動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？

- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS 処理水のこと

**ALPS
処理水**

動画で解説
トリチウムって何？

- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS 処理水のこと

**ALPS
処理水**

動画で解説
なぜALPS 処理水を
処分しなければならないの？

- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS 処理水のこと

**ALPS
処理水**

動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS 処理水のこと

**ALPS
処理水**

動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- **2023年12月5日、第12回日英原子力年次対話が、英国・ロンドンにて開催**された。
- 日本側からは、林美都子・外務省軍縮不拡散・科学部審議官を共同議長とし、経済産業省、文部科学省、原子力規制庁、環境省の関係者が出席した。
- 英国側からは、ヘファー・エネルギー安全保障・ネットゼロ省原子力・廃炉部長を共同議長として出席した。
- 本年次対話においては、「**原子力政策**」、「**廃炉と環境回復**」、「**パブリック・コミュニケーション**」、「**安全と規制**」、「**研究・開発**」に関する両国の取組について意見交換が行われた。
- 「廃炉と環境回復」では、日本側から、福島第一原発のALPS処理水の海洋放出について英国から示された理解に対して謝意を示した。また、両国は、共同研究開発をさらに強化する可能性について議論した。
- 「研究・開発」では、それぞれの研究開発の概要を紹介し、両国は廃炉向けの遠隔ロボットの分野における更なる協力の可能性について議論した。

- 2023年12月2日、COP28に出席するためアラブ首長国連邦ドバイを訪問中の**岸田総理は、エマニュエル・マクロン・フランス共和国大統領と電話会談を行った。**
- 両首脳は「特別なパートナーシップ」の下での**日仏協力のロードマップを発出。**
- 日仏協力のロードマップにおいて、**日仏両国における東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の着実な実施に向けた産業協力の検討やこれらの協力に必要な人材育成・交流等の拡大について盛り込まれた。**

日仏協力のロードマップの抜粋（ALPS処理水関連部分）

57 ……フランスは、ALPS処理水の海洋放出に関し、国際原子力機関（IAEA）との協同作業の中で日本側が透明性を示したことを強調する。フランスは、日本側がIAEAや地域のパートナー国との間で同様の透明性を確保したアプローチを採り続けるスタンスであることを歓迎する。フランスは、IAEAの公正さや技術的知見、及びALPS処理水の放出中・放出後の評価作業の継続に対する支持を再確認する。両国は、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の着実な実施に向けた産業協力について検討を進める。両国は、これらの協力に必要な人材育成・交流等を拡大する。

- **2023年12月6日、日本の主催により、G 7 首脳テレビ会談が開催**され、岸田総理が議長を務めた。
- 今回の会議では、G 7 日本議長年の総括として、ウクライナ情勢や中東情勢を始めとする重要課題や、A I、気候、経済的強靱性・経済安全保障などについて議論が行われた。
- 会合後、**G 7 首脳声明が発出**された。**ALPS処理水に関しては、「我々は、特にインド太平洋地域全体の科学者及びパートナー、並びにIAEAと積極的に協調しながら、福島第一原子力発電所からの多核種除去設備処理水の海への放出を、責任ある形で管理するための、状況の継続的なモニタリングを含む、安全で、透明性が高く、科学に基づいた日本のプロセスを歓迎する。我々はまた、IAEAによる7月4日の包括報告書及び継続的なモニタリングを歓迎する。我々は、プロセスにおいてIAEAが現地に駐在することの重要性を認識する。」**とされた。

G7首脳声明の抜粋（ALPS処理水関連部分）

We welcome Japan's safe, transparent, and science-based process, including the continued monitoring of the situation, to responsibly manage the discharge of Advanced Liquid Processing System treated water from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station into the sea in proactively coordinating with scientists and partners, particularly across the Indo-Pacific region, as well as with the IAEA. We also welcome the IAEA's comprehensive report of July 4, 2023 as well as its continued monitoring. We acknowledge the importance of the IAEA's onsite presence during the process.



▲ G 7 首脳テレビ会談で発言する岸田総理

- 2023年12月7日、**岸田総理は、訪日中のヨナス・ガール・ストーレ・ノルウェー王国首相と会談を行った。**
- **両首脳は、ALPS処理水の海洋放出について、国際原子力機関（IAEA）の包括報告書が、ALPS処理水の海洋放出は関連する国際安全基準に合致していると結論付けていることに留意し、IAEAにより実施されている継続的なレビュー及びモニタリングが極めて重要であることを確認。**
- **岸田総理は、ALPS処理水の海洋放出が、東日本大震災からの復興の重要な一歩であることを強調し、震災時のノルウェーからの数え切れない支援と励ましのメッセージに対して改めて心から感謝を述べた。**
- **ストーレ首相から、ALPS処理水の海洋放出について、日本が科学的根拠に基づき国際社会に説明を行ってきたことを高く評価する旨を述べた。**



▲日・ノルウェー首脳会談

- 2023年12月8日、岸田総理は、訪日中のデイビッド・カブア・マーシャル諸島共和国大統領と会談を行った。
- ALPS処理水について、岸田総理からは、科学的根拠に基づき、高い透明性を持って、丁寧な説明を継続してきたことに触れた上で、IAEAの継続的な関与の下でのモニタリングを通じ、放出が計画どおり安全に行われていることが確認されていることを改めて説明の上、今後も高い透明性をもって情報共有を行っていく旨を述べた。
- 両首脳は、科学的根拠に基づき対話を継続していくことを確認した。



▲日・マーシャル諸島首脳会談

- 国際原子力機関（IAEA）は、東京電力福島第一原子力発電所の事故を受け、海域モニタリングデータの信頼性及び透明性の維持向上のため、2014年度以降、海洋モニタリングを実施。
- 2022年に分析機関間比較（Interlaboratory Comparison（ILC））を実施し、**IAEAと日本で共同採取した海水、海底土、魚の飼料について、IAEA、日本の分析機関及びフィンランド、韓国の分析機関での結果の比較をIAEAが行った。**
- 12月11日、**IAEAは、上記のILCの結果を取りまとめ、報告書を公表した。**この報告書において、**IAEAは、日本の分析機関の試料採取方法は適切であり、かつ、ILCの結果から、海洋サンプル中の放射性核種の分析に参加した日本の分析機関が、引き続き高い正確性と能力を有している旨報告している。**
- 当該海洋モニタリングは今後も継続して実施予定。

報告書要約（和文仮訳）

・・・今回の試料採取は2022年11月に、IAEAと海域モニタリング計画に関係する日本の関連当局の参加の下、実施された。・・・海水と海底土の試料は東電福島第一原発の近傍にて採取され、福島県で水揚げされた数種類の魚が試料として採取された。試料は均質化された後、分析のために各分析機関に分割して送られた。

それぞれの試料中の放射性核種を比較すると、大多数が互いに有意な差をもたないことを示している。統計的な分析を行った結果、適用した統計的検定の95%以上が高い信頼水準（99%）で合格したことが示された。

したがって、参加した分析機関が、それぞれの分析機関が通常用いている手法で前処理及び分析した海水、海底土、魚の試料から検出した放射性核種について、信頼性があり、比較可能な結果を報告していると自信をもって結論付けられる。

・・・海洋試料中の放射性核種の分析に参加する日本の分析機関が、引き続き高い正確性と能力を有することを示している。

- **12月14日、東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する韓国政府向け説明会をテレビ会議形式で開催した。**
- 日本側から、外務省、資源エネルギー庁、原子力規制庁及び東京電力が、また韓国側から、外交部、原子力安全委員会、国務調整室等が参加した。
- 説明会では、**これまで行われたALPS処理水の海洋放出に関する技術的な事項等について、日本側から関連の補足説明や追加的な情報提供**などを行い、出席者との間で質疑応答を実施した。

- **12月16日から18日に、日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議を実施。**それに関連して、閣僚級会談も実施され、ALPS処理水に関する**発信**や**働きかけ**を実施。

1. 齋藤経済産業大臣とアミン財務・経済大臣（ブルネイ）との会談

- ✓ 12月15日（金）、齋藤経済産業大臣は訪日中のブルネイ・アミン財務・経済大臣（ブルネイ）と会談。
- ✓ 齋藤大臣から、**ALPS処理水海洋放出について、ブルネイが日本の立場に支持を表明していることに謝意**を示した。

2. 齋藤経済産業大臣とケオ鉱業エネルギー大臣（カンボジア）との会談

- ✓ 12月18日（月）、齋藤経済産業大臣は訪日中のケオ・ラタナック鉱業エネルギー大臣（カンボジア）と会談。
- ✓ 齋藤大臣から、**ALPS処理水海洋放出にかかる海産物の輸入禁止を行わない旨を表明していることに謝意**を示した。

3. 齋藤経済産業大臣とタスリフ・エネルギー・鉱物資源大臣（インドネシア）との会談

- ✓ 12月18日（月）、齋藤経済産業大臣は訪日中のアリフィン・タスリフ・エネルギー・鉱物資源大臣（インドネシア）と会談。
- ✓ 齋藤大臣から、**ALPS処理水の海洋放出について、インドネシアが日本の立場に支持を表明していることに謝意**を示した。



▲アミン財務・経済大臣（ブルネイ）との会談



▲ケオ鉱業エネルギー大臣（カンボジア）との会談

- その他、**様々な機会・あらゆるレベル**で、ALPS処理水の海洋放出に関する**発信**や**働きかけ**を実施。

1. 西村経済産業大臣（当時）とシムソン欧州委員会委員（エネルギー担当）との会談

- ✓ 12月1日（金）、西村経済産業大臣（当時）は訪日中のシムソン欧州委員会委員（エネルギー担当）と会談を実施。
- ✓ 西村大臣（当時）から、**ALPS処理水の海洋放出に関する取組状況等について説明**を行った。

2. 西村経済産業大臣（当時）とボグダノフ経済産業大臣（ブルガリア）との会談

- ✓ 12月5日（火）、西村経済産業大臣（当時）は訪日中のボグダノフ経済産業大臣（ブルガリア）と会談を実施。
- ✓ 西村大臣（当時）から、**ALPS処理水の海洋放出について、ブルガリアが日本の立場に支持を表明していることに謝意を示すとともに、引き続きの支援のお願い**を行った。

3. 西村経済産業大臣（当時）とヴェストレ貿易・産業大臣（ノルウェー）との会談

- ✓ 12月8日（金）、西村経済産業大臣（当時）は訪日中のヤン・クリスチャン・ヴェストレ貿易・産業大臣（ノルウェー）と会談を実施。
- ✓ 西村大臣（当時）から、**ALPS処理水の海洋放出について、ノルウェーのこれまでの対応に謝意を示すとともに、引き続きの支援のお願い**を行った。

4. 西村経済産業大臣（当時）とウルソ企業・メイドインイタリア大臣（イタリア）との会談

- ✓ 12月12日（火）、西村経済産業大臣（当時）は訪日中のアドルフォ・ウルソ企業・メイドインイタリア大臣（イタリア）と会談を実施。
- ✓ 西村大臣（当時）から、**ALPS処理水の海洋放出について、イタリアが日本の立場に支持を表明していることに謝意を示すとともに、引き続きの支援のお願い**を行った。

安全確保

東京電力

- 海水中トリチウムを測定。
- 海洋放出期間中に重点化し、放出中及び放出終了から1週間は、放出口周辺の4地点で毎日、発電所から3 km以内の6地点で週2回を実施。
- 放出停止中は、放出口周辺の4地点で週1回、発電所から3 km以内の6地点で月1回実施。

水産庁

- 水産物は年約380検体でトリチウムを測定。
- 放出後当面の間、①放水口の北北東へ約4 km、②放水口の南南東へ約5 kmの2地点で、迅速分析を実施。

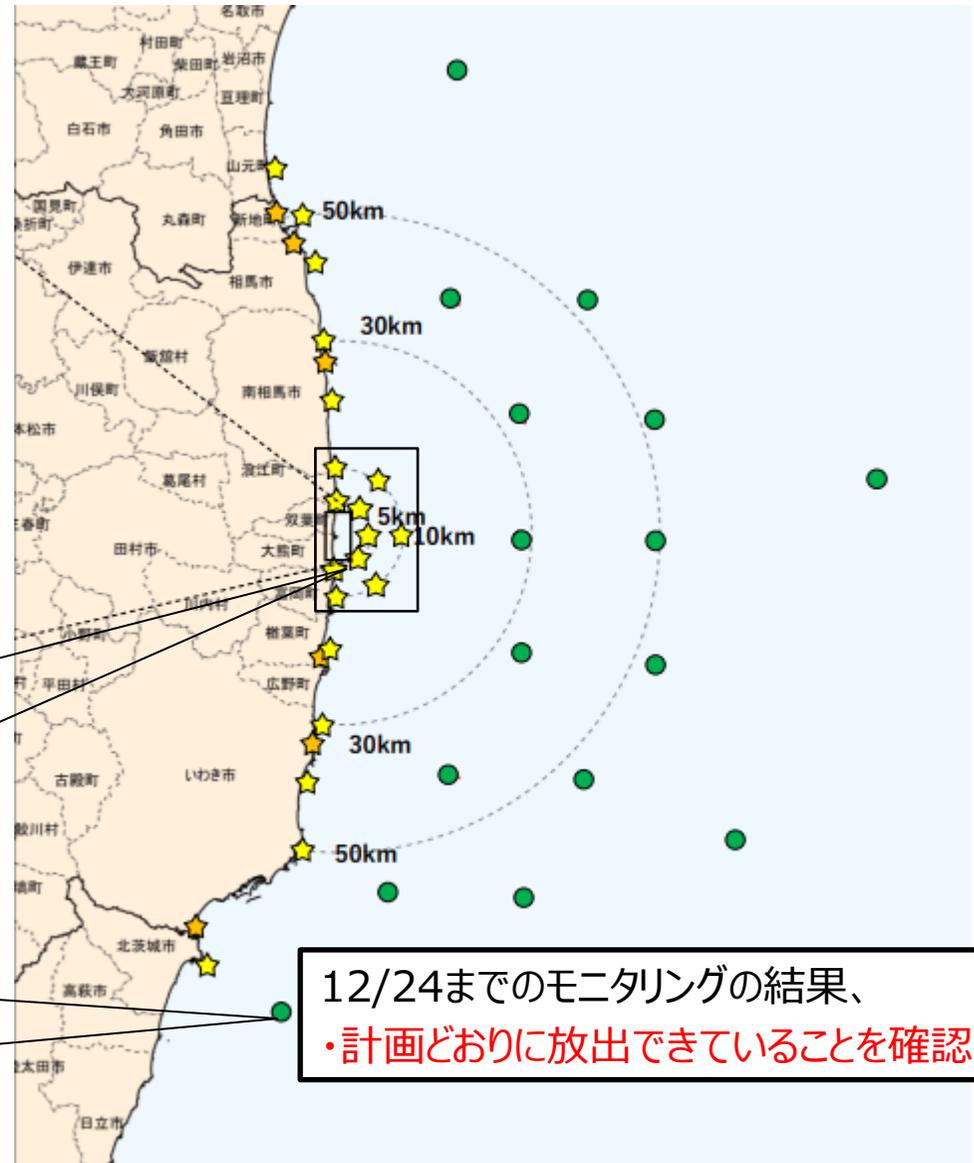
環境省

- 海水中トリチウムを測定。
- 海洋放出期間中に重点化し、約17日の放出期間中は放水口近傍の3地点は2回、その他20地点で1回実施。★
- 放出停止中は、放水口近傍の3地点を月1回実施。

原子力規制庁

- 海水中トリチウムを精密分析にて測定。
- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。●

【広域図】



12/24までのモニタリングの結果、
・計画どおりに放出できていることを確認

- 昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年12月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：第32回）

広告

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2023年12月）

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/l）を大きく下回る結果となっています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。

3km圏内（増測内を除く）

20km圏内

エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル/l】 （11月1日～11月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム （汚染物質）	3km圏内 11
	20km圏内 検出せず（<0.6）
セシウム134 ^{※1}	3km圏内 検出せず（<0.98）
	20km圏内 検出せず（<0.0014）
セシウム137 ^{※2}	3km圏内 検出せず（<0.92）
	20km圏内 0.045

【参考】トリチウム濃度の比較

単位：ベクレル/l

- 60,000 国の規制基準（放出口）^{※1}
- 10,000 WHO（世界保健機関）飲料水水質ガイドライン
- 700 放出停止判断レベル^{※2}（発電所から3km以内）
- 350 測定レベル^{※3}（発電所から3km以内）
- 20 日本全国の海水^{※4}過去の変動範囲

※1：11月の測定結果から検出されたトリチウム濃度。放出停止判断レベルは、放出停止後、検出されたと認められる場合、検出された濃度の10倍に引き上げられる。測定結果を基に汚染レベルを算出している。

※2：福島県沿岸海域に於ける放射能汚染調査の結果、セシウム134：0.00061ベクレル/l、セシウム137：0.0028ベクレル/l、トリチウム：0.045ベクレル/l（出典：日本の環境放射線と放射能 期間：2015/4～2022/3）

※3：福島第一原子力発電所から3km以内の海域において、定期的に採取した海水を採取し、放射性物質濃度を測定。

※4：日本全国の海域において、定期的に採取した海水を採取し、放射性物質濃度を測定。

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や汚染物の放射性物質濃度は、**有意な変動は確認されていません。**
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/de/commission/progress/water-treatment/monitoring/>

包括的・海域モニタリング観測システム（ORBS）

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県）が測定した海水および汚染物の放射性物質濃度も**有意な変動は確認されていません。**
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSをご覧ください。
<https://www.monitororbs.jp/>

広告

広告

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.32 【ALPS処理水に関する情報発信④】

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

東京電力ホームページ内の「処理水ポータルサイト」では、ALPS処理水の海洋放出に関する様々なデータを国内外[※]に発信しています。今回ご紹介する「海域モニタリングの結果」では、海水や魚類などのモニタリング結果をご覧くださいませ。

※日本に加え、米露/中国露/韓国露でも発信

ALPS処理水ポータルサイト

ALPS処理水 海洋放出の状況

最新・放出設備の状況

海域モニタリングの結果

11月1日現在 有意な変動なし

海域モニタリングの結果は、どうやって確認するの？

⇒ マップ内のポイントをクリックすると、モニタリング結果がグラフで表示されます。

① 福島第一原子力発電所 ② 放出口

東京電力の海域モニタリングの結果は、どこで確認するの？

⇒ 以下のサイトで、当社の他、関係省庁や自治体などが公表した海域モニタリング結果をまとめて閲覧できます。

包括的・海域モニタリング観測システム（ORBS）

ORBSは、海域の状況を省別別、包括的に示すため、当社の他、環境省、水産庁や自治体などが公表した海域モニタリング結果が公表されたデータを統合して、海域モニタリングの結果を収集し、地图上で一元的に閲覧できます。

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
【処理水ポータルサイト】
<https://www.tepco.co.jp/de/commission/progress/water-treatment/>

海域モニタリングの結果はこちらをご覧ください
【海域モニタリングの結果】
<https://www.tepco.co.jp/de/commission/progress/water-treatment/monitoring/>

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水に関する情報はこちらをご覧ください
【福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水に関する情報】
<https://www.tepco.co.jp/de/commission/voice.html>

① 世界保健機関（WHO）の飲料水水質ガイドラインを表記
② 過去の測定値・日本全国の変動範囲を記載し、最新の測定結果との比較が可能

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所
1979-1501 福島県福島市大字大野町2-2-2

広告